

筑後川における過去の水害発生地と河道変遷 および水神祠の立地との関係性

九州大学 樋口明彦
高尾忠志
榎本碧

背景



背景

- ・ 筑後川と流域の住民は濃密に関わって生活してきた。
- ・ 筑後川には水神祠が多く分布しており、水神祠が人と川との歴史的な関係性を読み解く手段になる。
- ・ 震災以降、過去の記録を今日に伝えるものとして碑や祠などの重要性が高まっている。



石崎地区に立地する水神祠



目的

筑後川に立地する水神祠の建立理由を明らかにする。

建立理由を明らかにすることにより、
水神祠が立地する地点における人々と川との歴史的関係性を読み解くことに繋がる。

研究の進め方

1) 現地調査

水神祠の立地場所、刻印、祭祀上の特色を記録

2) 聞き取り調査

水神祠の近隣の住民、管理者に対し、管理はどこがしているのか/祭りはどうしているか/謂れは何か、ということの聞き取り

3) 水神祠建立理由の推測

文献、筑後川絵図、明治時代の地形図を基に、過去の水害発生地、河道変遷と現在の水神祠の位置関係から水神祠の建立理由を推測

4) 建立理由の意見聴取

集落で生活する古老、郷土史家に対し、
3) で推測した建立理由の妥当性について
意見聴取、筑後川絵図、古写真について
意見聴取

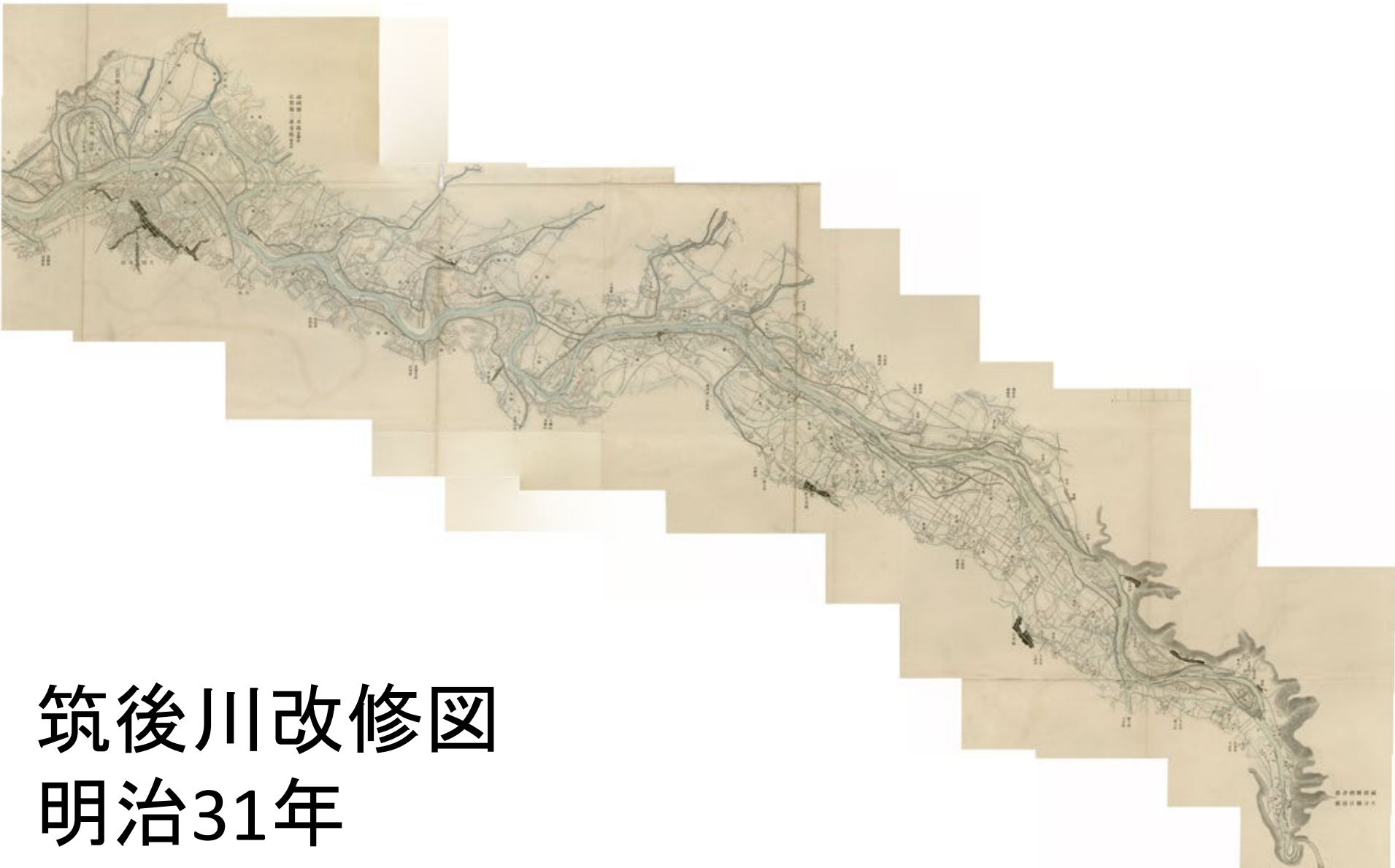


研究で用いた資料



筑後川絵図
弘化3年（1846年）

研究で用いた資料



筑後川改修図
明治31年

研究で用いた資料



調査結果：水神祠の分布

確認した水神祠の数　：　116ヶ所

建立理由の考察を実施した水神祠：　86ヶ所



水神祠の建立年代

刻印から年代が確認できた水神祠のうち一番古いもの：寛政11年(1799年)

→ この年代からは水神祠が建立されてきた

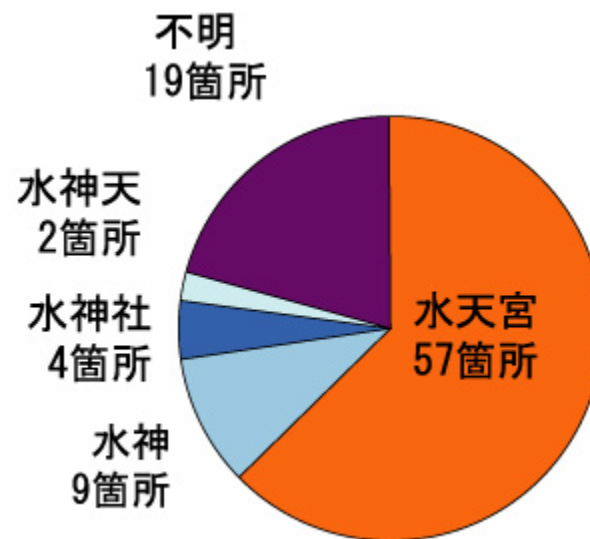
建立年代が比較的新しいもの → 再建されたものが多い



水神祠は刻印の年代以前からその場所に存在していた可能性がある

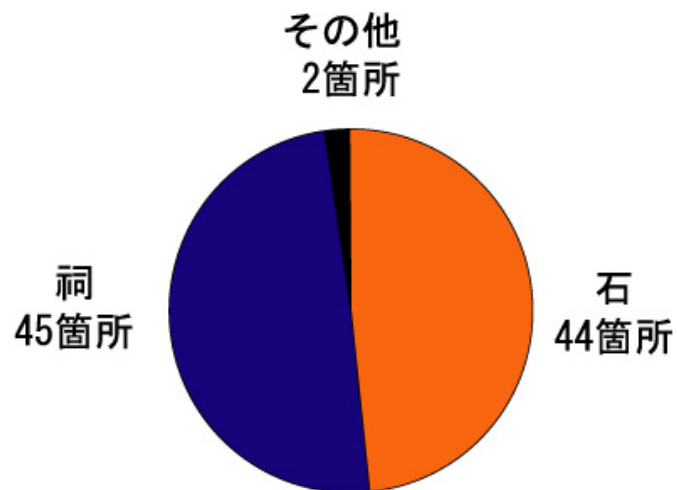
水神祠の祭祀

水天宮の総本山 久留米水天宮



水天宮信仰の広まりが確認できる

祭祀上の特色



地域により祭祀の違いが確認できる

高島地区に立地する水神祠の祭礼



稲益氏提供写真

毎年7月に子供の相撲大会が行われる

子供たちが「おぼくれませんように」ということを祈願し行われる伝統行事

古くからの伝統行事が引き継がれている水神祠の存在を確認

建立理由の考察

水神祠の建立理由は以下のように分類される。

1. 集落の暮らしの拠り所	57箇所
2. 農業利水	11箇所
3. 川港	4箇所
4. 筏	4箇所
5. 川漁	8箇所
6. 水難事故の供養	5箇所
7. 渡し	2箇所

1) 集落の暮らしの拠り所

- ・ 筑後川は氾濫常襲地帯であり、降雨後は一夜にして荒涼たる土地に変貌することから「一夜川」と呼ばれていた。
- ・ 洪水を繰り返している間に自然堤防ができ、水に浸らない微高地に集落が形成された。
- ・ 明治時代以後の筑後川沿川に大きな被害を与えた水害は「3大水害（明治22年、大正10年、昭和28年）」と呼ばれる。昭和28年の大水害後の筑後川改修計画が基となり、かつての川の姿は失われ、現在の川へと変わった。

歴史的に筑後川沿川の住民は水害に悩まされた

1) 集落の暮らしの拠り所

水神祠の立地 → 水害の被害に遭わない安全な場所

昭和28年の大水害での水神祠の被災状況

① 高い場所に立地



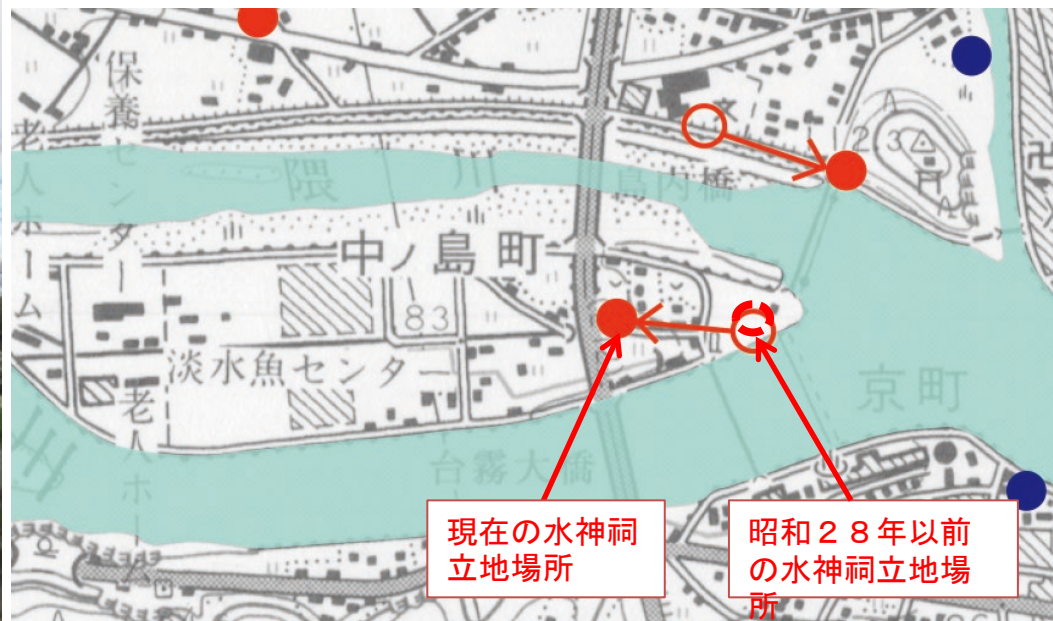
② 水害後に安全な場所へ移動



1) 集落の暮らしの拠り所：「中ノ島」地区の水神祠



中ノ島地区公民館敷地内に立地する水神祠



水神祠位置図

- ・ 昭和28年以前、中ノ島地区の先端に水神祠は立地していた。
- ・ 昭和28年の大水害のとき、住民は公民館に避難し、民家や水神祠は流失した。
- ・ 住民たちは「水天宮のおかげで集落に1人もけが人が出なかった」と思った。
- ・ その後1ヶ月程、流失した水神祠を探したが見つからず、新たに石をもってきて「水」と刻み、公民館の敷地内に祀っている。

1) 集落の暮らしの拠り所

住民は、先人の言い伝え、昭和28年以前の川の様子、昭和28年の大水害の実体験等を通して水害に対する恐怖の意識を持っている。

水害と隣り合わせの状況から集落を守ってもらうための暮らしの拠り所として水神祠が祀られた。

2) 農業利水

- ・ 筑後川は低水位であるため、沿川集落は筑後川から取水することが困難であった。集落住民は筑後川から取水し水田を広げることを悲願した。
- ・ 江戸時代、4大井堰（大石堰、山田井堰、床島堰、袋野堰）が築造され、筑後川から取水が可能となり水田が広まった。

住民にとっての農業利水の重要性を示している

2) 農業利水：「日比生」地区の水神祠



日比生地区に立地する水神祠



水神祠位置図

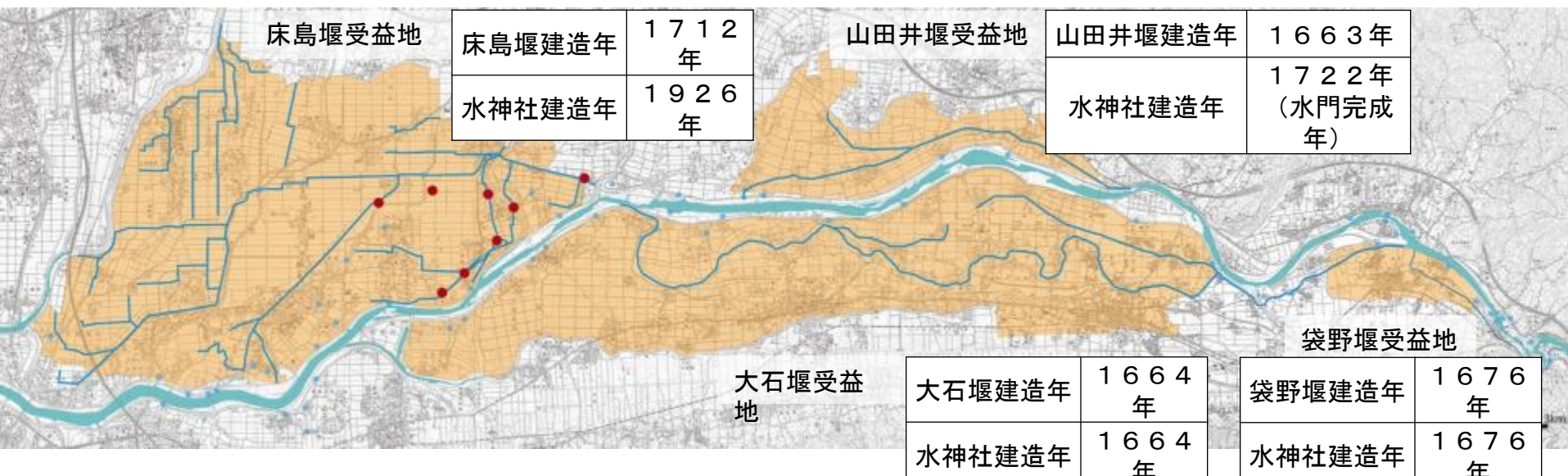
- ・ 南部用水路の真上に水神祠は立地する。
- ・ 金島放水路が本川となり床島用水から取水できなくなったため、新たに南部用水路を開削し、昭和31年の竣工時に南部用水組合が水神祠を建立した。

2) 農業利水：水神祠分布の違い

- ・ 4 大井堰の水路沿いに立地する水神祠の分布に違いが確認された。
- ・ 水神社の建立と関係があると考えられる。

袋野堰、山田井堰、大石堰 → 堰、水門完成時に受益者が水神社を建立
集落ごとに水神祠を建立する必要がない。

床島堰 → 水路が広い範囲に張り巡らされ、受益地全体に水路が完成する
までに時間がかかった。
水路完成後、受益者が水神社を建立した。



3) 川港

- ・ 筑後川では活発に舟運が行われてきた。
- ・ 天領・日田の租米を長崎まで運ぶため、「関、塚島」に公米積替所を設け、川船で運搬されていた。
- ・ 16世紀、久留米藩が「永倉、瀬ノ下、住吉」に川港を設けた。
17世紀後半、「荒瀬、恵利、片ノ瀬、住吉」に川港を設け、舟運の拠点とした。
- ・ 昭和初期に舟運が失われるまで、川港が利用されていた。



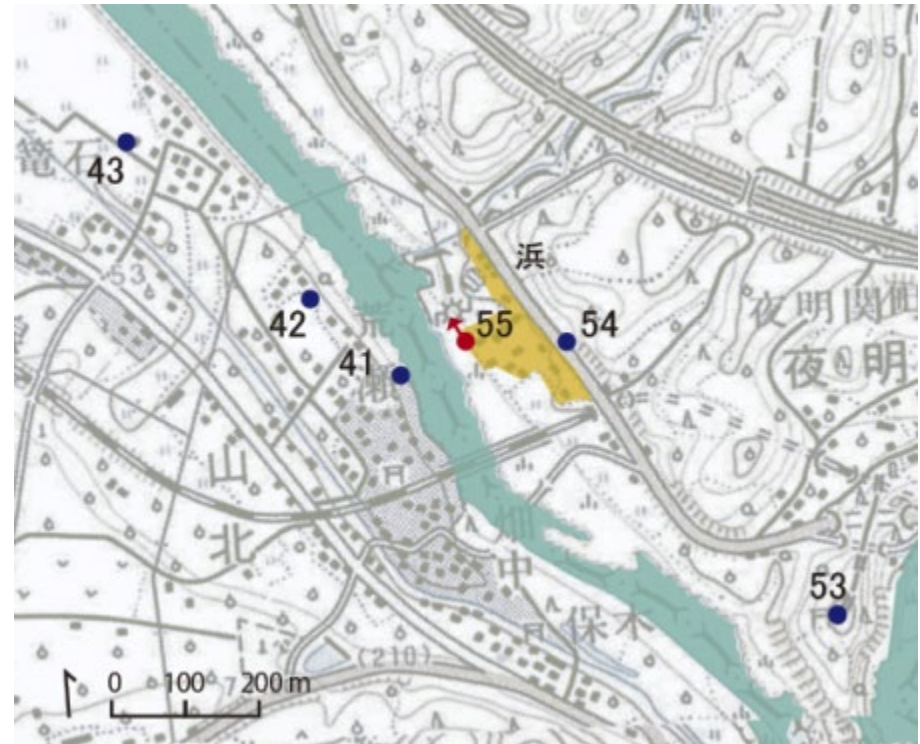
昭和初期、杷木付近の様子

3) 川港：「浜」地区の水神祠



水神祠

浜地区に立地する水神祠



水神祠位置図

- ・ 浜地区はかつて川港があった。
- ・ 集落住民は川船の船頭として生計を立てていた。
- ・ 浜地区の川港から薪の積み出し、日常の品物を久留米まで運んでいた。
- ・ 筑後川には難所があり、川船には危険が伴っていた。

3) 川港

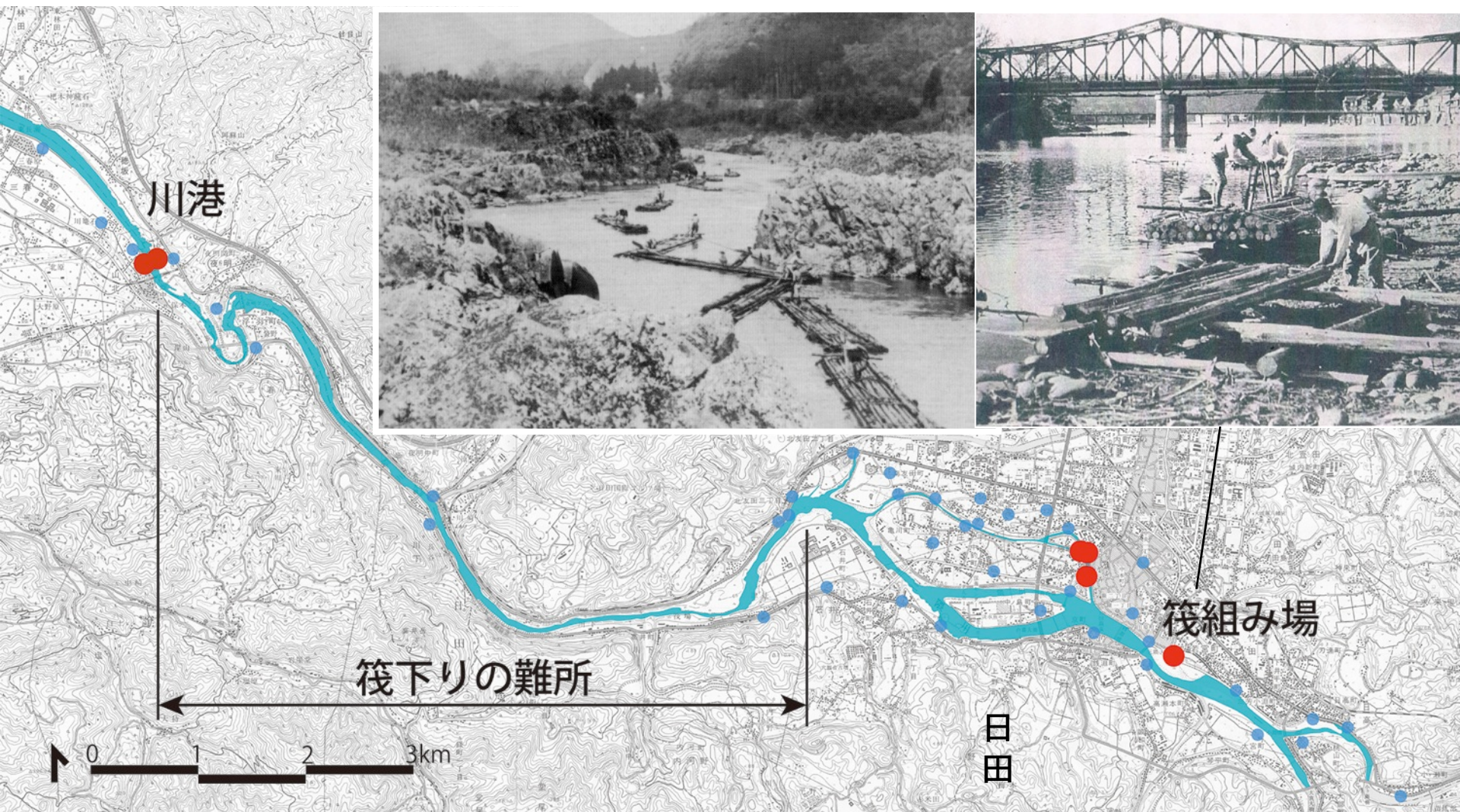
かつて筑後川は川船が行き交い、船頭で川港が賑わいをみせ、川船で生計を立てた集落もあった。

川港に関わる船頭、集落住民が川船の安全を願って水神祠が祀られた。



4) 筏

- ・ 日田のかつての主産業：林業
- ・ 筏下りは川港で停泊して大川まで下っていく



7) 水神祠と渡しの関係



荒津～石王

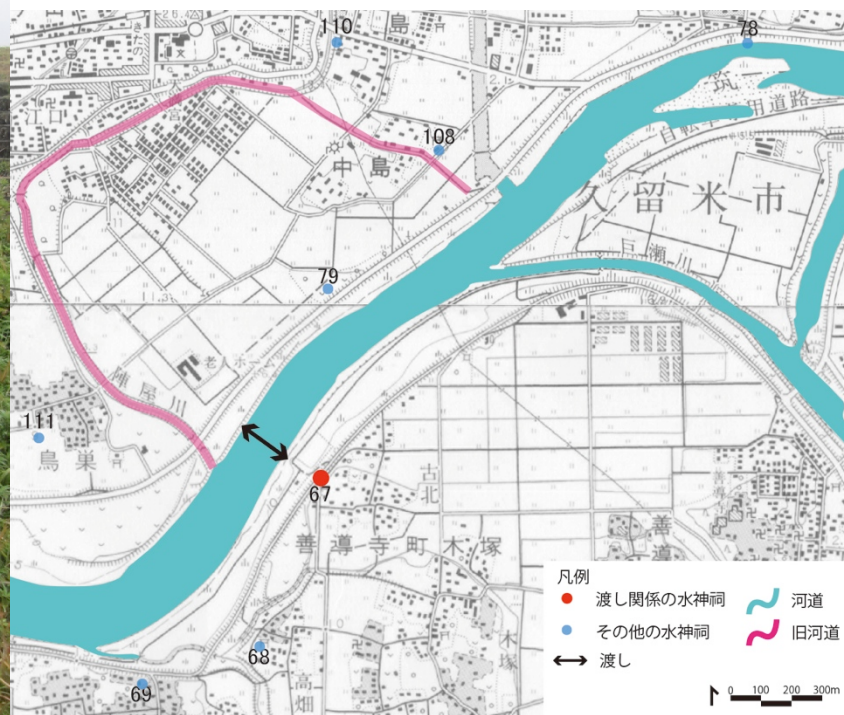
22箇所の渡しをプロットし、そのうちの11箇所の渡しの近くに水神祠が確認した。

両岸に水神祠がある2箇所、片岸のみに水神祠がある9箇所

7) 渡し



古北地区に立地する水神祠



水神祠位置図

結論

【目的】

筑後川に立地する水神祠の建立理由を明らかにする。

【意義】

水神祠の建立理由を明らかにすることで水神祠に立地する地点における人々と川との歴史的関係性を読み解くことに繋がる。

- ・ 水神祠は人の川への想いが託された存在
- ・ 水害が直接の建立理由ではない
- ・ 河道変遷により移設されたものも多い

結論

- ・ 水神祠の建立理由として以下の7つに分類されることを明らかにした。
 - 1) 集落の暮らしの拠り所、
 - 2) 農業利水、
 - 3) 川港、
 - 4) 筏、
 - 5) 川漁、
 - 6) 水難事故の供養、
 - 7) 渡し
- ・ 聞き取り調査対象の古老、郷土史家は平均年齢が高く、今後、かつての川の様子について話を聞ける可能性が低い。
- ・ 昭和28年以前の川の姿について記録をまとめることができた

塚島地区に立地する水神祠と石積み



既往研究

「吉野川沿川における神社立地の特徴に関する研究」
西谷宗泰ら/景観・デザイン研究講演集2009

「洪水常襲地における神社立地に関する基礎的研究～黒部川扇状地・富山位入善町を対象として～」
服部周平ら/景観デザイン研究講演集2012

「筑後地方における水に関わる民間伝承の地理的特性に関する考察」
上田祥史ら/日本建築学会大会学術梗概集2003

今後に向けて

- ・今回得た記録は今後の河川整備において貴重な情報である。
この成果を研究に留めるだけでなく、全ての水神祠に対して
意見聴取を行い、水神祠にまつわる物語を冊子等にしてまとめ、
水神祠の謂れを記した説明看板を作成するときや、筑後川
河川
事務所が河川整備を行うときに活用してもらうことを望む。

筑後川沿川における集落形成の背景

- ・ 筑後川は氾濫常襲地帯
- ・ 山の麓から集落が形成し、
その後、氾濫常襲地帯の中にある微高地形に集落が形成



既往研究

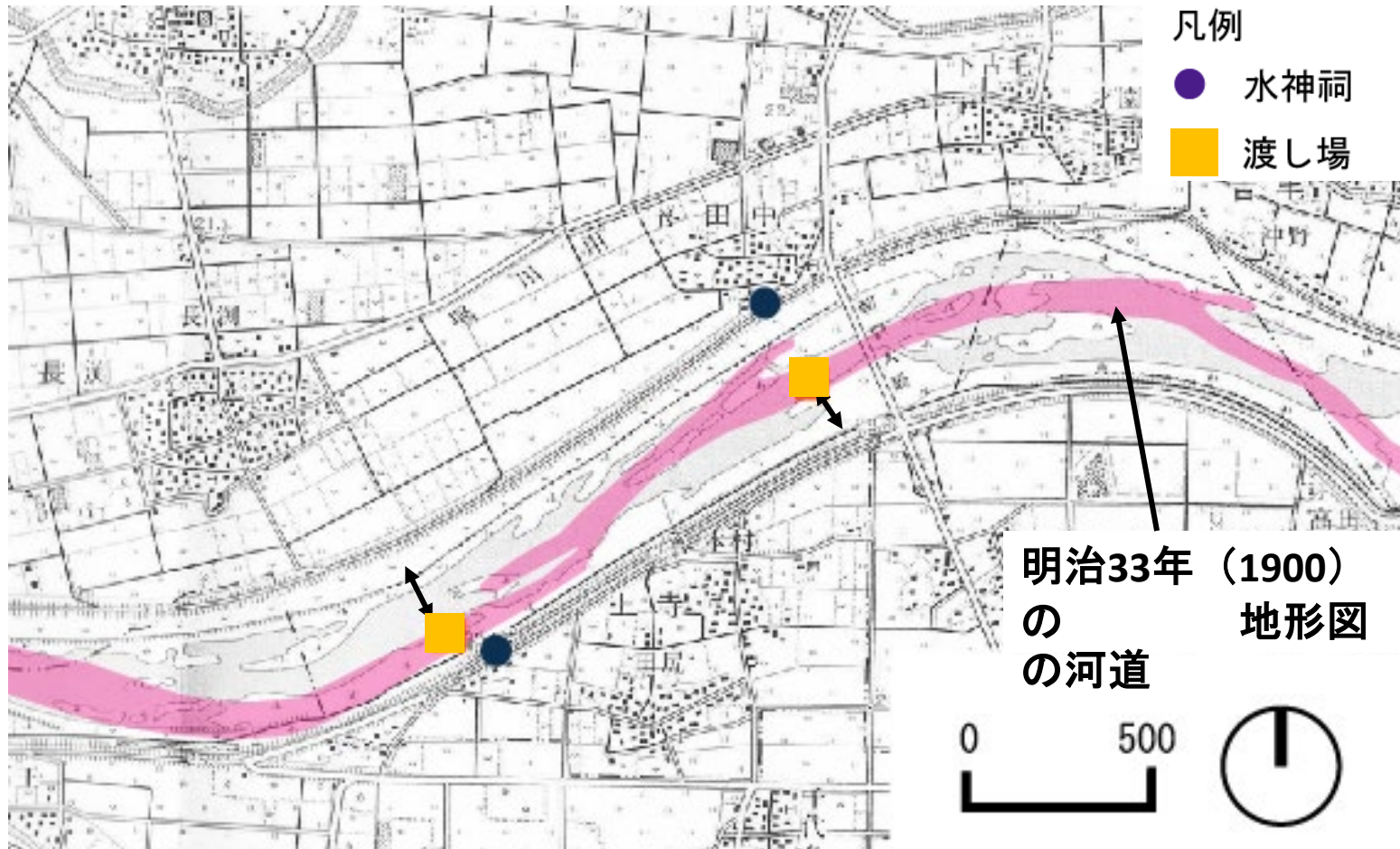
「吉野川沿川における神社立地の特徴に関する研究」
西谷宗泰ら/景観・デザイン研究講演集2009

「洪水常襲地における神社立地に関する基礎的研究～黒部川扇状地・富山位入善町を対象として～」
服部周平ら/景観デザイン研究講演集2012

「筑後地方における水に関わる民間伝承の地理的特性に関する考察」
上田祥史ら/日本建築学会大会学術梗概集2003

筑後川の水神祠を対象に地形特性との関係に着目した研究は
おこなわれていない

渡しの兩岸に水神祠があった可能性の推測



水神祠の対岸は河道変化が大きいことが確認できる

→ 河道拡幅される前は、水神祠があった可能性ある